

## 献 辞

井手啓二教授は昭和18年福岡県のお生まれで、昭和40年3月に山口大学経済学部をご卒業後、同年4月京都大学大学院経済学研究科に進学され、昭和45年3月に同大学院博士課程を満期退学、同年4月に立命館大学経営学部及び同大学大学院経営学専攻科の助教授に就任、昭和58年同大学教授に昇任され、平成6年3月まで在職されました。その後、平成6年4月に長崎大学経済学部教授に転じられ、平成20年3月定年により本学部を退職されました。

先生は、教育面では学部、大学院（博士前期課程・後期課程）において、38年間にわたり社会主義企業論、企業論特講、アジア経済論、国際関係概論、中国経済論特講、比較経済論及び演習、国際教育演習（教職課程）などを担当されました。特に演習指導において熱意をもって指導に当たられ、長崎大学在任の14年間だけでも、多数の外国人留学生を含む学部ゼミ生、大学院生、研究生を社会に送り出し、卒業後もゼミ生とも密接な交流を維持されるなど、長崎大学の教育に多大の貢献をされました。

研究面においては、中国と中欧の経済・経営、比較経済体制論の分野で先駆的研究を進め、中国経済研究、ポーランド経済研究は学界において高く評価されています。またワシントン、ウイーン、カザフスタン、日本で開催された国際シンポジウムでの報告・コメンテーター、中国、ポーランド、ハンガリーでの講演など国外でも活躍されておられます。

また、学会活動においても、第15期日本学術会議経済理論研究連絡委員会委員、比較経済体制学会幹事、日本比較経営学会理事長、日本クラブ・東欧研究会理事・編集委員、アジア経営学会評議員、日本労働研究機構専門研究委員（チェコ労使関係）、JICA カザフスタン派遣専門委員、『比較経済体制研究』編集代表などの役職を永年務めておられます。

学内の組織運営においては、長崎大学熱帯医学研究所運営委員会委員、経済学部留学生委員会委員長、同自己評価委員会委員長、講座主任、教務委員など多くの委員会委員等の役職を務め、大学運営にも尽力されました。

学外の社会活動においては、長年にわたり日本中国友好協会全国常任理事（現在は参与）、日本私大教連副委員長、京都私教連委員長、長崎市北・西・中央公民館講座講師などを務め、平和・民主運動、生涯教育に尽力され、また、地域の教育の発展にあっては、毎年のように長崎大学公開講座を担当され、放送大学長崎学習センター、長崎県立大学、静岡大学、島根大学、大阪外国語大学など数多くの大学の非常勤講師を務めておられます。

先生のお人柄について一言附言させていただきますと、先生は会議等において常に自分の信念を強く主張しておられましたが、一方、その持ち前のお人柄によって、誰に対しても明るく接しておられ、学部の宴席等においても常に座の中心となって、学部の雰囲気とを和ませるのにも大きな貢献をしていただきました。

先生は、ご退職後も中国の大学に出かけられるなど、現在も研究と教育の生活を続けておられます。先生の長崎大学の教員としての御貢献に教職員を代表いたしまして改めて感謝申し上げますと共に、今後の先生のご健勝を祈念して、本記念号献呈の辞に代えることにしたいと思います。

平成20年12月

長崎大学経済学会長

長崎大学経済学部長

東 條 正



井手 啓二 教授